

「がん治療における歯科支持療法」
全国共通がん医科歯科連携講習会のスタンスについて

本講習会で提示している「口腔ケア」の目的は「口腔の症状緩和、経口摂取の支援を通して、がん治療を予定通りに、最後まで遂行できるように支援すること」です。

がん治療中の有害事象には、口や歯に関連するトラブルが多くみられます。しかし、これらの口腔に関連する治療合併症は、残念ながら発症をゼロに予防する方法が未だ確立されておられません。

私たちが推奨する口腔内不衛生の改善、清掃状態の維持という、いわゆる「口腔ケア」は、あくまでもがん治療中の口腔トラブルの頻度や重症度などのリスク軽減を期待するものであり、口腔内をきれいにすれば、すべての合併症・トラブルが予防できるわけではないことをご理解ください。

本講習会で提示している歯科支持療法、口腔の副作用の治療方法については、多くは確立した標準治療が存在しないため、専門家の経験にもとづいた症状緩和を目指す対症療法を記載しているものも多いです。しかし、がん治療の支援としての口腔ケアのエビデンスはいまだ十分ではない部分もありますが、それを踏まえた上でも、がん治療の全ての時期を通して口腔内を清潔にし、口腔機能を保つことの重要性は否定されるものではありません。歯科医師・歯科衛生士によるがん治療開始前からの予防的歯科介入は、がん患者さんの支援として重要な役割を担うと考えています。

がん診療医科歯科連携推進協議会幹事会
平成26年8月